

平和記念だより



◆編集・発行：高松市 人権啓発課 平和記念係

◆連絡先：高松市松島町一丁目15番1号

たかまつミライエ5階

TEL: 087-833-2211 FAX: 087-833-2244

高松市戦争遺品展の開催

8月5日(金)～10日(水)、市民交流プラザIKÛDE瓦町 展示コーナーにおいて、第26回高松市戦争遺品展を開催しました。

今年は銃後の生活(銃後の女性と子どもたち)をテーマに、寄贈品の中から手投消火器や愛国婦人会のたすき、千人針など、当時の生活物資を展示しました。

パネル展示のコーナーでは、空襲被災後の写真を見ながら、「当時この近くに住んでたんよ。」とお話しいただいたり、築地国民学校の写真を見ながら、ご本人やご家族の方が通われていたというお話など、展示をご覧になった方からいろいろなお話を聞かせていただきました。また、さわれるコーナーでは、語り部さんに教えてもらいながらゲートルを巻く小学生の姿もあり、ゲートルを巻いた足で歩いた後、「いつもよりちょっと楽な感じ。」と感想を教えてくださいました。



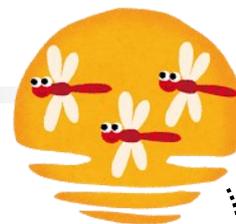
▲ゲートルを足に巻く小学生

今回の展示では集束焼夷弾の実物大レプリカのほか、最近寄贈された収蔵品など、計183点を展示しました。また同会場にて、日本ユニセフ協会にご協力いただき、パネル展も同時開催しました。

**連日の猛暑にもかかわらず、
たくさんの方にご来場いただきました。
ありがとうございました。**



高松市戦争遺品展の感想



私は小さい頃から祖母から高松空襲の話聞かされてきました。でもそれは、聞かなくてはいけないこと、知っておかなくちゃいけないことです。祖母は当時7歳でした。祖母は当時の話をするとき、涙を流しながら思い出しています。私は体験していないので、祖母の苦しみ、悲しみは十分にわかったつもりでも全部を分かることはできないと思います。今回、展示会を見ただけでもとても悲しくて、心苦しいです。

私のひいおじいさんは満州へ行きました。いまだに行方不明です。ひいおじいさんからのひいおばあさん宛の手紙が残っていて、今も大切に大切に仏壇へ置いてあります。

今後、こんな恐ろしいことを本当にくり返して欲しくありません。

(大学・専門学校生 女性)

二度と戦争を起こしてはならない。何も残らない。生命はみんな大事。自分も他の人も。

毎日の生活の中に、今の平和を感謝したい。子ども、孫、未来永劫平和でありますように。

語り継ぐことの大切さを決してあきらめない。

(40歳～50歳代 女性)

写真を見ている中、再びあの恐ろしい夜を思い出しました。母と弟たちと私、4人いろいろの取り決めで母と別れて3人だけで逃げた。あとから母が声をからして呼ぶ声で気がついてやっと4人一緒になり逃げた。

母の年になり、今何とか一人で歩け、ここまで来られ、写真展を見えます。戦争は嫌です。戦いのない世の中になって欲しいです。

(70歳代以上 女性)

戦後71年、あらためて戦争の悲惨さ、高松空襲、原爆投下で多くの方が犠牲になり、今まで苦しんでおられる方を思うと、二度と戦争をくり返してはならないと思いました。8月は原水爆禁止世界大会が開かれ、高松市でもこのような写真展を開くことは、多くの市民の方に知らせていく上で大切な取組だと思えます。

(40歳～50歳代 女性)

アンケートにご協力いただき、
ありがとうございました。



高松戦災・原爆写真展 8月11日(木)～16日(火)開催

『高松市戦争遺品展』に引き続き、今年も高松市平和を願う市民団体協議会主催による『高松戦災・原爆写真展』が開催されました。

期間中は、広島・長崎の原爆被害や高松空襲の資料を展示し、市民に平和の大切さを呼びかけました。

高松市平和記念館が開館します！

11月23日
OPEN!

11月23日（水）、高松市平和記念館がいよいよ開館します。新しくなった平和記念館では、平成24年に閉館した平和記念室の基本理念を継承し、小中学生のための平和学習の機能を充実させました。平和を願う市民の心を継承していく施設として、ぜひご利用ください。



館内は、①戦前・戦時下の高松、②高松空襲、③終戦・戦後の高松、④平和への取組・核兵器の廃絶の4つを基本的な区分として展示・解説しており、これまでに市民の皆さんから寄贈いただいた遺品を一部展示しています。

また、平和学習用のビデオやDVDの視聴ができるほか、一部貸し出しもおこなっていますので、ぜひご利用ください。

* ご利用案内 *

開館時間：9：00～17：00

休館日：毎週火曜日、年末年始

入館料：無料

お問い合わせ先：高松市松島町一丁目15番1号
たかまつミライエ5階

高松市平和記念館

TEL(087)833-2211



今後の行事予定

平和記念館開館記念事業

【日時】平成28年12月22日（木）14：00～16：00

【場所】たかまつミライエ1階・多目的室

第1部 「平和作文・詩の賞状授与および最優秀者による朗読」

第2部 「高松空襲体験の伝承」

木内晶子さん（女優、うどん県副知事）と、
高松市内の小中学生による空襲体験談の朗読



戦時用語解説51 憲兵

「憲」は、字も重々しく模範・手本・命令などの意味がある。これに兵をつけた憲兵は、「陸軍の一兵科にして軍人の犯罪を取り締まり、軍紀を維持する軍事警察にかかわる兵科」となる。

戦前から憲兵は治安警察の「特高」とともに、軍人だけに限らず国民全体の思想言動に眼を光らせ、「憲兵隊に引っ張られた」という噂は「警察に引っ張られた」よりも重々しく、冷酷、暴力等の暗いマイナスイメージが定着してしまった。戦争に入ると占領地の治安維持が憲兵の仕事となり、ゲリラ・スパイの摘発はもちろんのこと、敵意をもった住民の取り締まり、捕虜の管理にいたるまでその行動は峻烈苛酷をきわめた。

このため戦後の戦争犯罪人の追及が始まると、すべての在職憲兵がその対象となった。

戦前の憲兵は国民から「軍隊のおまわりさん」と呼ばれ、品行方正、学術優秀のまじめなエリートのシンボルであったが、軍が権力を握った時代に多くの行き過ぎを生んだわけで、まじめに働いた元憲兵にとっては、この払拭できないイメージはやりきれないに違いない。

参考文献「日本軍隊用語集」寺田近雄

収蔵品紹介52 <<最近の収蔵品より>>

【忠勇の巻】 提供者 鎌田 良美 様

提供者の奥様の叔父にあたる石井中尉の戦死に際して、当時の連隊長（後の陸軍中将）安達二十三（あだちはたぞう）氏から、両親に宛てた手紙を一つの巻物（軸）にしたもの。封筒や書面等を一つにまとめているため、箱書きには「忠勇の巻 全」とある。安達二十三中将は、太平洋戦争敗戦にあたって、見事な進退を見せた将官として有名である。部下たちからも慕われ、大変尊敬された人物で、「愛の統率 安達二十三 第十八軍司令官ニューギニア戦記」（小松茂朗著 光人社）の書籍も有名である。

また、箱書きをしている炭山蘆洲氏も小豆島出身の有名な書家で、御子息は日展参与、日本書芸院顧問、毎日展名誉会員の炭山南木である。



編集メモ

平和記念館の開館を控え、本庁舎から「たかまつミライエ」へと事務所を引っ越しました。11月23日のオープンに向けて、大忙しで開館準備を進める毎日です。



▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18976.html>